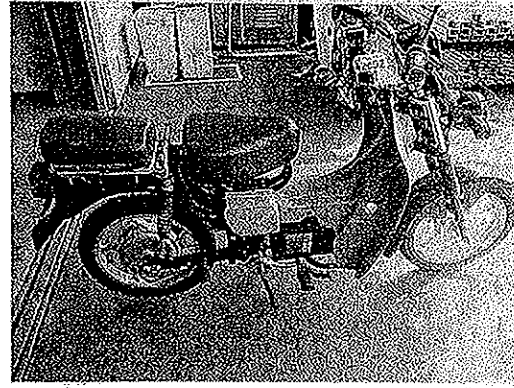


環境車採用にアクセル



池戸溶接の装置で電動に改造したバイク。4時間の充電で40km/hの走行可能

静岡県内の製造業や金融機関で環境対応車を導入する動きが広がってきた。バイクでは地元企業が電動式に改造する装置を開発。精密部品メーカーが導入を決め、信用金庫なども関心を示す。電気自動車は銀行やレンタカー会社が採用し、今年度中に15台程度に増える見通し。ガソリン車に比べて高価だが、各社は温暖化ガス排出量の削減につながる点をアピールする。

原田精機 営業に電動バイク 静岡 銀 電気自動車を導入

輸送機器や精密部品の原田精機グループ(浜松市)は月内にも営業用に電動バイクを4台導入する。池戸溶接製作所(浜松市)が中古バイクを電動バイクに改造して納入する。中古バイクの価格に加え、改造費用が1台18万円かかる。原田精機は二酸化炭素(CO₂)など温暖化ガスを測定する衛星の開発にかかわっている。環境に配慮した営業活動の一環として電動バイクに着目した。池戸溶接の装置には県内の複数の信用金庫が関心を示している。近く改造作業や走行性能などの説明を受けるといい、採用が広がりそうだ。電気自動車を購入する

企業も始めた。中部電力静岡支店が9月、県内で初めて三菱自動車の電気自動車「i-MiEV(アイ・ミーブ)」を導入したのに続き、静岡銀行でも来月、1台導入する。営業用にハイブリッド車を約30台保有してい

るが、環境配慮の一環として採用を決めた。一方、レンタカーのサンコーレンタリース(静岡市)は17日からアイ・ミーブのレンタルを始め、料金は12時間5500円。1台のみで1日1組限定だが、「一般に発売

されていないアイ・ミーブを貸し出すことで話題づくりを狙う」という。アイ・ミーブの価格は460万円だが、国から最大139万円の補助を受けられる。100%電源で14時間充電すれば最長160km/hの走行できる

が、30分で80%まで充電可能な急速充電器は県内には1カ所のみ。県内企業の関心は徐々に高まっており、東京都や横浜市のように充電器設置への独自助成策などが広がれば電気自動車の普及に弾みがつく可能性がある。